

令和6年度 「未来の教室」実証事業



ふるさと納税を活用した
教育資金獲得における自治体類型化と
教育事業創出支援

株式会社 トラストバンク

- P3. 1.事業者紹介
- P5. 2.実証に関する提案
- P12. 3.実証内容
- P22. 4.実証成果
- P36. 5.今後の展望・考察

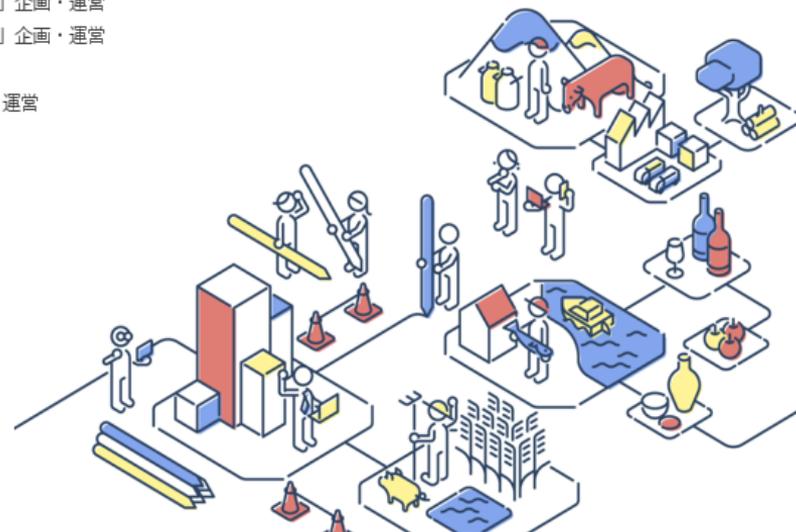
1. 事業者紹介

TRUST BANK

会社名 株式会社トラストバンク / TRUSTBANK, Inc.
設立日 2012年 4月 2日
資本金 122,243,816円
本社住所 〒141-0021 東京都品川区上大崎三丁目1番1号
JR東急目黒ビル 7階
TEL : 03-6843-3470 (代表)

役員一覧	代表取締役	川村 憲一	社外取締役	保田 隆明
	取締役	木澤 真澄	監査役	大森 元
	取締役	福留 大士	執行役員	上野 雄介
	取締役	山田 裕	執行役員	川崎 将一
	取締役	田中 美優	執行役員	宗形 深
			執行役員	山本 欽一

- ふるさと納税事業（個人版）
「ふるさとチョイス」企画・運営
「ガバメントクラウドファンディング®」企画・運営
「ふるさとチョイス災害支援」企画・運営
「ふるさとチョイス収納代行サービス」運営
- ふるさと納税事業（企業版）
「企業版ふるさとチョイス」企画・運営
- パブリテック事業
「LoGoチャット」企画・運営
「LoGoフォーム」企画・運営
- 地域通貨事業
「chilica」企画・運営
- EC事業
「めいぶつチョイス」企画・運営
- 教育事業
「ふるさと納税セミナー（自治体、生産者・事業者、寄付者向け）」企画・運営
- その他事業
「外国語寄付サービス」企画・運営
「レジリエンスパッケージ」企画・運営



2. 実証に関する提案

R5年度実証内容

- ・ふるさと納税ユーザの調査実施。
- ・寄附者のタイプ分けと寄附動機について整理。

R5年度実証を踏まえた政策提言

調査からの提言と具体的なアクション

01 教育現場における
不足人材の派遣

02 現場(校長・教員)への持続的な
研修と学びの機会を創出

03 GCFに新たに取り組む
現場へのハンズオン支援

04 寄附者を増やすための
より大きなムーブメント化

R6年度実証内容

- ①実践推進に向けたマニュアル作成。
- ②GCFの企画建てや庁内での同意調整における支援等、現場への学びの機会創出。

・調査から得た課題に対しての施策を検証するべく内容を協力企業の株式会社Prima Pinguino様、実証フィールドである長野県白馬村様と調整し実証を行った。

実証の背景

各自治体において財源不足が深刻化する中、教育に費やせる予算も限られている。一方で、教育現場では多様化する児童・生徒に対応するための多様な学びの機会が求められる中、教員不足・スキルを持った人員の不足等が問題視されている。

実証の目的

ふるさと納税は全国の方から意思ある寄附として各自治体の創意工夫で寄附募集ができる一つ的手段である。**今回はクラウドファンディング型ふるさと納税であるガバメントクラウドファンディング® (GCF®)**を活用し、資金が不足している教育現場に資金を還流させ、教育現場における課題解決や実施したい施策の実現を目指す。

ふるさとと納税制度を活用して 自治体が行うクラウドファンディング

集まった寄附金を何に活用するのかという **使い道を明確化** し、
どのような結果がもたらされるのかといった、その先にある
想いやビジョンを描いて寄附を募る仕組み です。

資金の調達手段の1つとしてだけでなく、
地域の抱える課題や、未来のまちづくりの取り組みを伝えることで
市民参加を促すきっかけとして、地域の魅力を発信する機会としてご活用いただけます。

総務省における

「ふるさと起業家支援プロジェクト」

「ふるさと移住交流促進プロジェクト」の両プロジェクトは、

2024年度もGCFにて掲載が可能です。詳細につきましては、お問合せ下さい。

累計寄附金額

2025/1/1時点

約200億円超

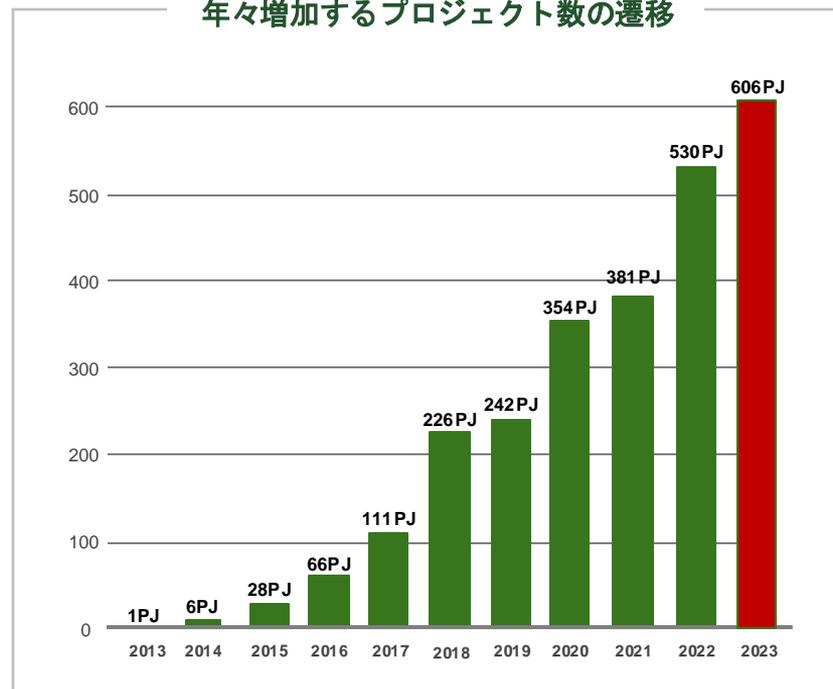
ふるさと納税の拡がりと共に、GCFのプロジェクト数も年々増加しています。クラウドファンディングの仕組みへの認知度も上がり、「共有・共感」が社会的に受け入れられやすくなったことから、

GCFは増加の傾向が続くことが期待されます。

GCF全体の累計数

 プロジェクト累計	約 3,000 プロジェクト超
 掲載自治体数	約 600 自治体超
 累計寄附金額	約 200 億円超

年々増加するプロジェクト数の遷移

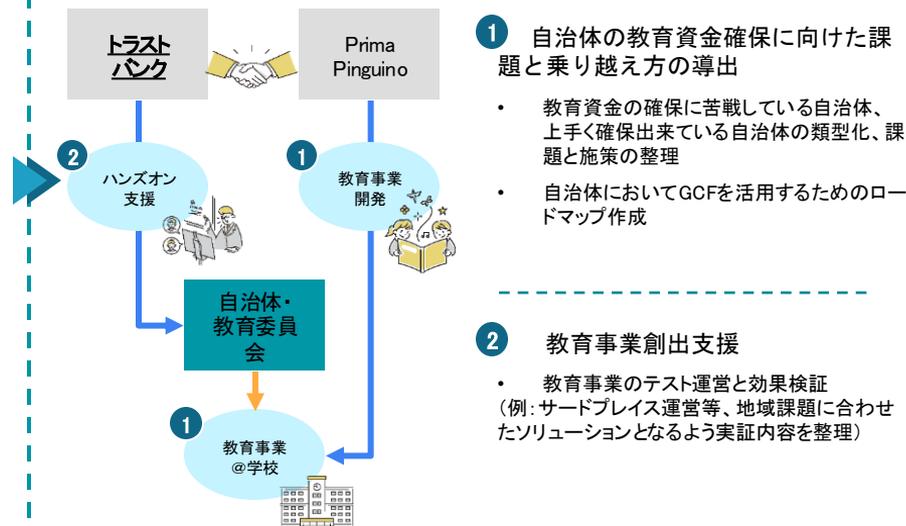


※ 寄附申込ベースでの金額 2024年3月21日時点 トラストバンク調べ

実証概要

事業者	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社トラストバンク(東京)
事業者の概要	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと納税総合サイト「ふるさとチョイス」の運営
実現したい姿	<ul style="list-style-type: none"> 社会資源が教育に還流し、地域間格差が是正され、地方からリバースイノベーションが創出される状態
実施論点	<p>自治体がふるさと納税を活用して財源不足を乗り越え、地域の教育に資金を還元するために必要な取組とは？</p> <ol style="list-style-type: none"> 自治体が教育資金確保に向けてふるさと納税を実施するうえで抱えている課題と乗り越え方は？ 自治体が教育資金確保に向けてふるさと納税を実施するためには、どのように準備を進めていけばよいか？
実証フィールド	<ul style="list-style-type: none"> 長野県白馬村
主な委託先	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社Prima Pinguino(コンテンツ制作・実行)
評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 資金確保方策・資金活用方策の型化への期待

実証事項

ふるさと納税を活用した教育資金獲得における自治体類型化と
教育事業創出支援

- 自治体の教育資金確保に向けた課題と乗り越え方の導出
 - 教育資金の確保に苦戦している自治体、上手く確保出来ている自治体の類型化、課題と施策の整理
 - 自治体においてGCFを活用するためのロードマップ作成
- 教育事業創出支援
 - 教育事業のテスト運営と効果検証
(例: サードプレイス運営等、地域課題に合わせたソリューションとなるよう実証内容を整理)

実証成果サマリ

①46の自治体にアンケートを実施し、各自治体の課題等を可視化。アンケート結果でGCFを活用して教育領域におけるGCF活用状況を軸にTier（階層）分けを行い、各Tierの課題や施策を整理した。その上でGCFを活用している4自治体には個別ヒアリング実施。多くの自治体や教育委員会で課題となり得るであろう庁内調整や事業立案等の際に、どのように調整を進めGCF実施に至っているかを確認し、ヒントとして整理を行った。

②実証フィールドである長野県白馬村ではイングリッシュキャンプを実施。今回の実証事業を通じて行政や学校側が大きく手ごたえを感じて頂いた結果、次年度以降も予算を確保し実施に向けた協議を始める可能性が出てきた。その際の財源としてGCFを活用頂くことも視野に検討を頂けることに。

3. 実証内容

中論点	論点（詳細）	初期仮説（現時点仮説）	想定アウトプット
<p>1.自治体が教育資金確保に向けてふるさと納税を実施するうえで抱えている課題と乗り越え方は？</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教育資金確保に向けてふるさと納税に取り組もうとする自治体にはどのような類型があるか？ 上記の類型別に、抱えている課題とは何か？その乗り越え方とは？ 横展開を見据えたときに、今回の実証で対象とする自治体とは？ 	<ul style="list-style-type: none"> コンテンツ（出口とする教育事業）、ファイナンス（資金使途の限定、それに伴う関係者間調整）、プロモーション（市民への訴求の方法）においてマチュリティレベルが異なり、類型化できる コンテンツ：どのような教育事業を行えば寄附が集められるか見当がつかず、外部人材により教員DX支援、サードプレイス運営をコーディネートすることで寄附に繋げることができる …等 3つ全てにおいてマチュリティレベルの低い自治体としてXXXを対象に検証をおこなっていく 	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと納税により教育資金を獲得していこうとする自治体の類型、類型ごとの課題とそれに対する打ち手の仮説 上記類型のうち、1自治体を対象とした課題の解決手法の有効性検証結果
<p>2.自治体が教育資金確保に向けてふるさと納税を実施するためには、どのように準備を進めていけばよいか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと納税をはじめようとする自治体が取るべきアクションとは？ 巻き込むべき関係者と、自治体・関係者それぞれの役割は？ 準備に必要な期間や重要なマイルストーンは？ 市民からより多くの寄附を集める上でのポイントは？ どうすれば伸ばす学びに寄附が集まるのか？ 使途を教育分野に特定する方法にはどのようなパターンがあるか？ 上記方法を実施するうえでのポイントと留意点とは？ 	<ul style="list-style-type: none"> 関係者の特定・調整・巻き込み、寄附サイトの整務フロー作成、周知広報等 寄附サイトの設計・募集等は外部事業者に依頼し、自治体は制度運用ルールの確認や事務フローの整理等を担う 自治体の方針によって大きく異なり、早ければ2～3か月、長くて1年程度かかる 寄附の必要性を訴えるストーリー設計や、使いやすい募集ページ設計、レポーティング機能 GCF活用、当初予算、補正予算、余剰分の次年度予算への組込、条例と共に基金を作る等 予算編成時は財政当局との調整・他分野との調整がハードル。基金は条例を作れば設立できるが、議会承認にハードル。自治体の状況に応じて選択することが必要 資金を教育に回すことの目的や、正しく使われるための運用方針・ルールの整備がポイント 	<ul style="list-style-type: none"> 自治体がふるさと納税GCFの導入・実施にあたり、実施すべき項目のロードマップ より多くの寄附を集めるためのポイント整理結果 資金使途を教育に特定するための方法一覧

実施内容：教育GCFに関する自治体の取り組み状況のアンケート調査

- 実施時期：2024年12月19日～2025年1月14日
- 調査目的：自治体が教育分野における資金確保に向けてふるさと納税（GCF）を実施するうえで、自治体の状況に合わせた分類を行い、分類ごとの課題・解決策を明らかにするため
- 調査手法：WEBアンケート
- 回答数：46自治体
- アンケート内容：
 - ①教育分野に関するGCFの実施有無、今後の利用意向
 - ②教育分野に関する財源確保状況
 - ③GCF利用にあたり課題・ハードルになること
 - ④（教育GCF実施自治体のみ）事業内容・資金集めの状況・資金運用方法・実施体制
 - ⑤（教育GCF実施自治体のみ）事業に関するビジョン・指針の明確度合い、組織的な動きができていますか

実施内容：自治体が教育GCFに取り組むためのプロセス/ノウハウに関する個別ヒアリング

- 実施時期：2025年1月23日～2025年1月29日
- 調査目的：教育GCFを利用している自治体において、実施までの庁内プロセス・実施ノウハウを明らかにするため
- 調査手法：対面ヒアリング（WEB）
- 対象自治体：
 - 神奈川県鎌倉市
 - 愛知県日進市
 - 京都府京丹後市
 - 鹿児島県徳之島町
- ヒアリング内容：
 - ①GCF実施までの庁内の流れ（ロードマップ）
 - ②上記において、他自治体が課題と感じる箇所について貴自治体ではどのように取り組んでいるか
 - 教育における方針・取り組みの決定方法
 - GCF実施事業の決定方法
 - 財政部署との調整・連携方法
 - ふるさと納税担当部署との調整・連携方法
 - GCF実施時の人員体制
 - GCF実施方法・ノウハウの取得方法
 - 関係部署へのGCFの理解浸透方法

実施内容

- 実施時期：2024年10月～12月
- 支援の目的：白馬村が教育GCFに取り組むとして、教育事業（プログラム）実施までのプロセスにおいて、抱えている課題やそれに対する打ち手を明らかにすること
- 実施場所：長野県白馬村
- 選定理由：教育GCFは以前活用頂いていたが、継続的な活用には至っておらず、また経験のあるふるさと納税ご担当職員様が異動されたことも重なり、弊社にて支援が必要な状況であったため
- 実施内容：教育事業（プログラム）の創出と実行支援。地域特性の一つである居住外国人の方等にご協力を頂きイングリッシュキャンプを開催



ながのけん はくぼむら
長野県 白馬村

📍 白馬村について

長野県の北西部に位置する人口約9,000人の白馬村。

1998年の長野オリンピック・パラリンピックでは、スキーマルペン・ジャンプ・クロスカントリー・ノルディック複合の開催地となり、世界に"Hakuba"の名前が知られました。

また、上村愛子さんや渡部暁斗選手など、これまでの多くのオリンピック選手を輩出しています。

近年は、国内最大級のスキー場とパウダースノーを目的に海外からの観光客が増加しており、国内外からの移住者も増えています。

そして、登山やアウトドア・アクティビティなど、グリーンシーズンも楽しみがたくさん！官民一体となって世界水準の国際山岳観光地を目指して、地域資源を活用した魅力ある村づくりを進めています。

美しい景観、多様なアクティビティ、美味しい食べ物、温かいおもてなし。四季を通じて、来て、観て、食べて、白馬村を応援してください！

ふるさとチョイスHPより引用

白馬村の現状

- ・白馬村では、国内外から多様なバックグラウンドを持つ人々が共生しており、白馬村にしながら、多様な文化に触れることができる環境がある。
- ・外国人居住者に加え、多くの外国人観光客を受け入れる長野県白馬村では、多文化共生のあり方を模索している。
- ・多様なバックグラウンドを持つ人々と対話のできる人材、観光業をはじめとする産業を担う人材の育成が求められている。
- ・一方、中高生が外国人と触れ合う機会はあまりなく、同時にコミュニティに溶け込めていない外国人もいる。

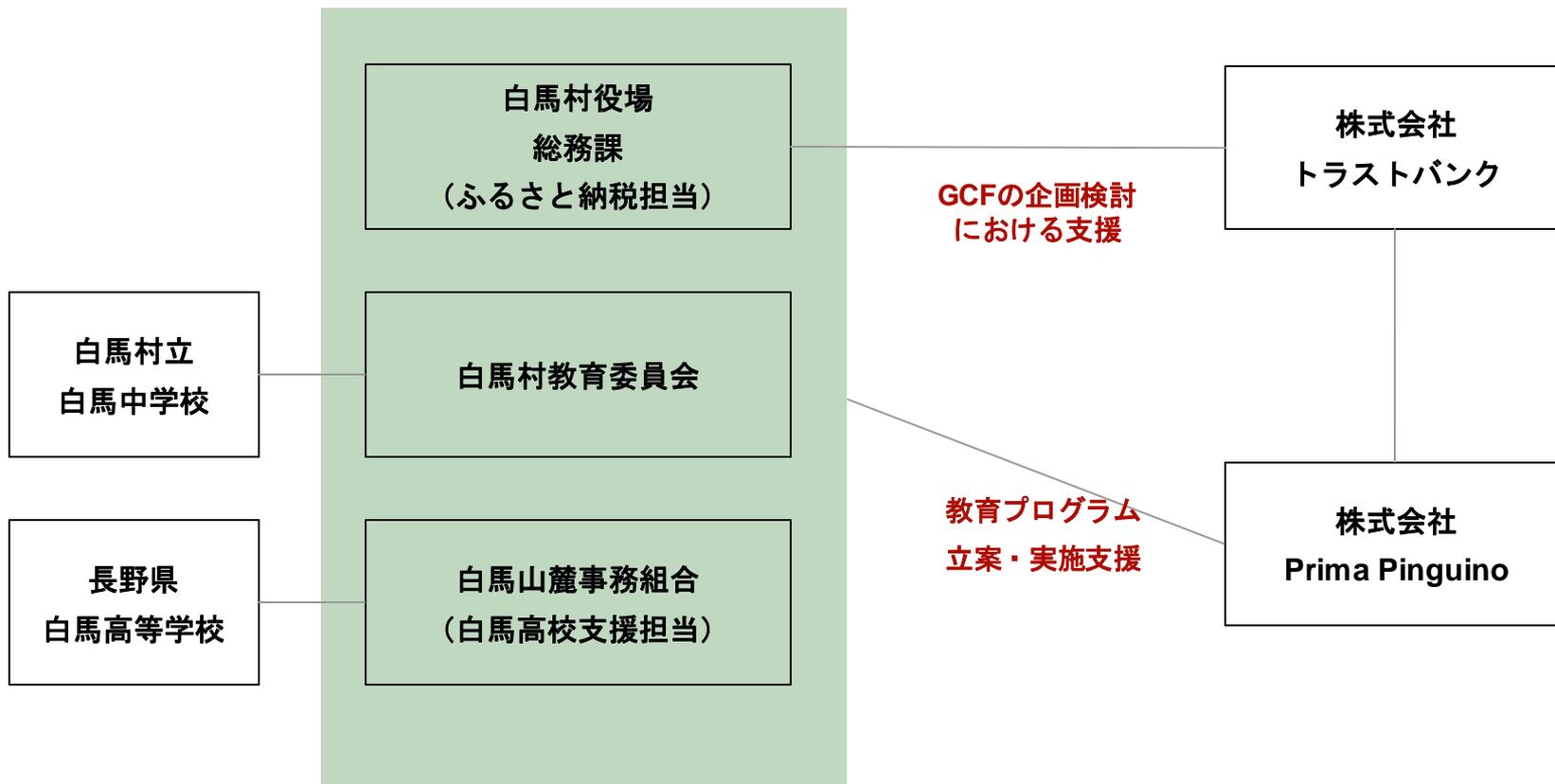
白馬村の課題

予算における課題

- ・このような絶好の環境を活かし英語教育を実行するためには予算確保が必須であるが、村内唯一の高校である長野県白馬高校を支援する白馬山麓事務組合や白馬村教育委員会にはそういった学びを支援するための十分な**予算が確保されていない**。
- ・また白馬村は過去に教育をテーマにしたGCFに挑戦したことはあるが、その後**継続的な実施**や予算確保にはつながっていない。

推進役における課題

- ・教育事業（プログラム）実施にあたり、GCFを活用して財源を継続的に確保する場合、白馬山麓事務組合、白馬村教育委員会、ふるさと納税を管轄する白馬村役場総務課等を巻き込んだ横断的なプロジェクトとなるため、内部調整を推進する**旗振り役の存在**と手を動かして調整や作業を行う人手が必要である。白馬村の場合、旗振り役となる存在はあったものの、各所との調整や手を動かして手続きや書類作成、プログラム企画や実施をするための**人手が不足**している。
- ・実施してみたい教育事業の方向性は定まっているものの、具体的なコンテンツまでは落とし込めていない。





Prima Pinguino

会社概要

商号	株式会社Prima Pinguino Prima Pinguino Co., Ltd.
代表取締役	藤岡 慎二
創業	2006年10月19日
資本金	1,000万円
事業内容	<ol style="list-style-type: none">1: 教材及び書籍の作成出版業務2: 教育・その他コンテンツの企画・制作・販売業務3: 学生・社会人及び法人や自治体などへの教育相談業務4: 教育・その他の情報提供サービス業務5: ITによるコミュニケーションシステムの開発運用販売業務6: 自治体へのまちづくり・地域活性化に伴う事業と関連する業務7: 有料職業紹介事業8: 前各号に付帯する一切の業務

2024年

9月

10月

11月

12月

実証地域
長野県白馬村
に決定

実証地域の選定・依頼・調整

白馬村内
関係者調整

教育プログラム
内容・日程検討

教育プログラム
準備

教育プログラ
ム実施

成果
取りまとめ

●第1回打合せ
総務課に
対し、打診

●第2回打合せ
関係各所に対し
実証事業説明・依頼

●第3回打合せ
ビジョンたたき
台提示
プログラム内容
アイデア出し

●第4回打合せ
プログラム内容
確定・
役割分担・スケ
ジュール
確認

●第5回打合せ
当日のロジ等
最終確認

白馬村

- ・ 検討
- ・ プログラム
方向性案作成

- ・ 関係者
巻き込み

- ・ プログラム内容アイデア検討
- ・ 中学校・高校への説明
- ・ プログラムアイデア検討

- ・ 共催・後援申請事務
- ・ 会場予約事務
- ・ 参加者募集

トラストバンク

Prima Pinguino

- ・ 白馬村に依頼
- ・ 白馬村教育大綱等資料読み込み
- ・ 白馬村教育ビジョンのたたき台検討
- ・ 方向性案から具体的なコンテンツ
落とし込み

- ・ チラシ・要綱・プレスリリース文
作成
- ・ 共催・後援申請手続き
- ・ 会場関連手続き
- ・ 役割分担とスケジュール表作成

- ・ 当日のスケジュール
作成
- ・ スライド等作成

- ・ トラストバンクにて白馬山麓
事務組合様へ
教育と資金調達における課題の
ヒアリング実施

*関係各所とは、白馬村役場総務課、白馬村教育委員会、白馬山麓事務組合を指す

4. 実証成果

1. 自治体に対するアンケート調査実施

- ・46自治体に対してアンケート調査を実施したところ、GCFの実施状況や教育分野における資金調達状況に関して、4つの段階に分類することができた。
- ・各段階共通の課題もある一方で、段階特有の課題も明確になった。
- ・各自治体が課題に感じている項目について、GCFをうまく活用し教育分野に資金調達している自治体ではどのように実施しているのか、個別ヒアリングを行い明らかにすることとした。

2. 教育GCF継続活用層自治体への個別ヒアリング実施／ 白馬村での実証事業

- ・ヒアリングを通じて成功している自治体（教育GCF継続活用層自治体）の庁内の流れを確認したところ、GCFを活用するための主流の流れが存在していた。
- ・また、白馬村での実証事業・ヒアリング内容もふまえ、GCF組成に向けた庁内の流れ・各課題の乗り越え方のヒントを整理し、マニュアル化することとした。

3. 自治体においてGCFを活用するためのロードマップ作成

4 GCF実施の実態調査・アンケート結果

Tier分類	自治体の状況定義	課題	必要な支援策
教育GCF 継続活用層	教育分野に関するGCFを実施したことがある（伸ばす学びに活用）、GCFやその他手法を活用して継続的に資金を確保できている	<p>■伸ばす学びにおける資金不足 ↳8自治体中5自治体が「伸ばす学びにおける資金が不足している」と回答</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・GCFが2年目、3年目と続くことで寄附金の集まり進捗は厳しくなるため、新規層、リピーター層の獲得に向けたデータ解析支援
教育GCF 単発活用層	教育分野に関するGCFを実施したことがある	<p>■継続的な財源確保 以下の3分類に整理された。 ①継続的な財源確保に課題がある自治体 ②そもそも継続的な実施を目指していない自治体 ③実施し始めたばかりでまだ継続できていない自治体</p> <p>■教育GCF実施における課題・ハードル 教育におけるビジョンが明確になっている自治体は比較的多いが、体制不足を課題に挙げる自治体は約7割と他Tier同様多かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・GCFやその他手法を活用した継続的な資金調達方法のナレッジ共有 ・継続的なGCF活用のためのハンズオン支援 ・人員不足を課題とする自治体に対するナレッジ共有・支援
GCF実施層	GCFを実施したことがあるが、教育分野に関するGCFを実施したことがない	<p>■教育GCF実施における課題・ハードル 対象自治体のうち半数以上が、以下を課題に挙げた。 ・動ける人員が不足している（75%） ・伸ばす学びにおける方針や取り組みが明確になっていない（63%） ・どの事業に集めるのか決められていない（63%） ・財政部署やふるさと納税担当部署との連携ができていない（50%）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・GCF活用自治体のロードマップを展開し、庁内調整の進め方・ポイント等のナレッジ共有 ・教育GCF単発活用層以上の自治体の事例共有・連携促進
関心層	GCFを実施したことがない、今後教育におけるGCFの利用を検討している	<p>■教育GCF実施における課題・ハードル GCF実施層と同様、対象自治体のうち半数以上が以下の点を課題に挙げた。 ・動ける人員が不足している（75%） ・財政部署やふるさと納税担当部署との連携ができていない（63%） ・伸ばす学びにおける方針や取り組みが明確になっていない（50%） さらに、関心層特有の傾向として、ノウハウ不足・関係部署のGCF理解不足も課題として挙げた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・GCF実施に向けたノウハウ提供（マニュアル配布・セミナー実施等） ・GCF活用自治体のロードマップを展開し、庁内調整の進め方・ポイント等のナレッジ共有

GCF実施における分類ごとの課題

- 自治体にアンケートを取ったところGCFの実施状況、GCFの継続性に関して一定分類することができた
- 分類共通の課題もある一方で、分類特有の課題も一定明確になった。
- ヒアリングを通じて成功している自治体の流れを確認したところ、共通点としては教育委員会から具体的な施策の企画提案がなされた上で首長部局へ提案や相談を行うといった主流の流れが存在していた。
- その流れの中で他自治体でも活用できそうな点をヒントとして整理し、これからGCFを教育領域に活用しようと検討している自治体が直面するであろう課題に有用と思われる点をヒントとして整理した。

	N	定義			課題					
		伸ばす学び	継続性	GCF成功	ビジョンが不明確	GCF実施内容未定	内部調整	ノウハウ不足	体制不足	GCF理解不足
		割合			割合					
教育GCF 継続活用層	8	100%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
教育GCF 単発活用層	18	61%	17%	44%	17%	33%	33%	33%	67%	0%
GCF実施層	8	0%	0%	0%	63%	63%	50%	38%	75%	0%
関心層	8	0%	0%	0%	50%	13%	63%	63%	75%	50%
対象外	4									
合計	46									

【教育GCF継続活用層】

- 取り組み内容
 - 教育GCF実施（伸ばす学びへの活用）。
 - GCF以外の手法も含めて継続的な財源確保を実施。
 - （例）基金活用、ふるさと納税の通常の使い道項目に追加、一般寄附。
- 課題感
 - 伸ばす学びにおける資金不足。
 - 8自治体中5自治体が「伸ばす学びにおける資金が不足している」と回答。

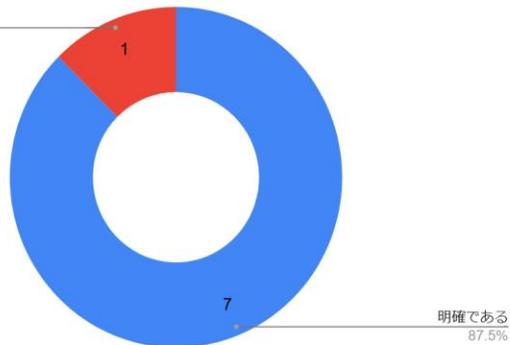
ヒアリング結果から得たヒント

- マインドセット
 - 共通しているのが教育GCF継続活用層自治体の職員の方は出来る方法やアプローチを考え、行動していること
 - 教育における課題の解像度も高く、自身の言葉で課題や想定施策を語れる点も共通していた。
- 財源確保
 - GCFにこだわりすぎず、ふるさと納税の使い道へ教育関連の要素を追加したり、基金設立の上集めた寄附を運用する自治体もあった。リスクヘッジの意味でもアプローチが複数あることで一定財源確保の目途を立てることは有効に感じる。
- 財政部局への理解推進
 - 他自治体の成功事例を複数提示+教育委員会から要望を挙げることでふるさと納税の活用検討が始まるのでまずは現場課題と施策を整理し要望を上げる体制を構築する。
 - 他ユニークな事例としては首長と財政部署を含めた会議体で事業化したい内容をプレゼンテーションで決定している事例もあった。現場課題と寄附の使い道をマッチングする意味でも有効なアプローチの一つになり得ると感じる。
- 体制不足
 - 概ね1.5~2名程度での運用。
 - 他Tier自治体は教育GCF継続活用層自治体の運用状況を把握することでイメージが付きドライブしやすくなる可能性有。

● 教育GCF継続活用層のアンケート結果

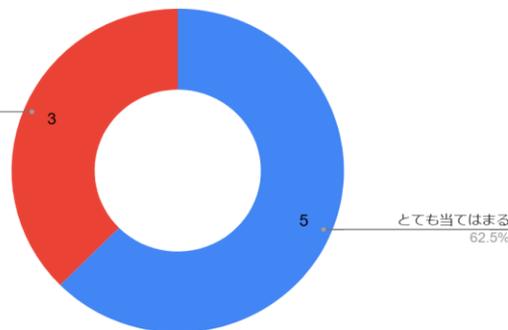
教育分野に関して実施したGCF事業に関して、事業を外部に説明できるような、ビジョン・指針が明確である。

やや明確である
12.5%

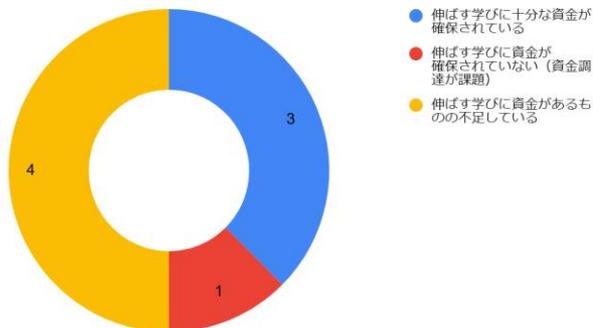


教育に関するビジョン、指針等の実現に向け、関係者による意思統一ができており、組織的な動きが行えている。

やや当てはまる
37.5%



「伸ばす学び」に一般に関して、資金の調達状況について選択してください。



【教育GCF単発活用層】

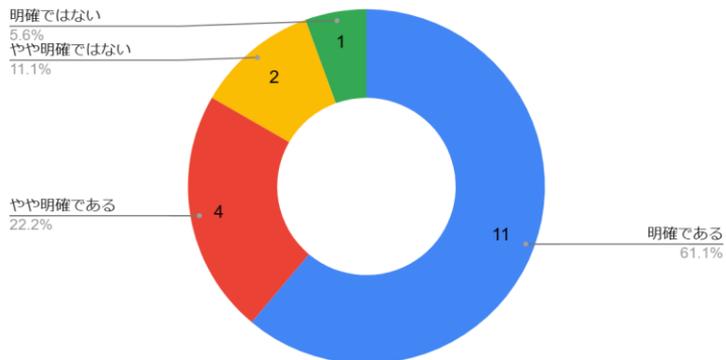
- 取り組み内容
 - 教育GCF実施
- 課題感
 - (1)継続的な財源確保
 - 継続的な財源確保が課題の一つとして見えてきたが、全自治体が該当しているわけではなく以下の3分類に整理された。
 - ①継続的な財源確保に課題がある自治体
 - 財政部署の理解が得られない、受益者負担への切り替えが難しい。
 - ②そもそも継続的な実施を目指していない自治体。
 - ③実施し始めたばかりでまだ継続できていない自治体。
 - (2)教育GCF実施における課題・ハードル
 - 教育におけるビジョンが明確になっている自治体は比較的多いが、体制不足を課題に挙げる自治体は約7割と他Tier同様多かった。
 - 約3割の自治体が、GCF実施内容未定・内部調整・ノウハウ不足と回答した。
 - (3)伸ばす学びにおける資金不足
 - 18自治体中14自治体が「伸ばす学びにおける資金が不足している」と回答。

ヒアリング結果から得たヒント

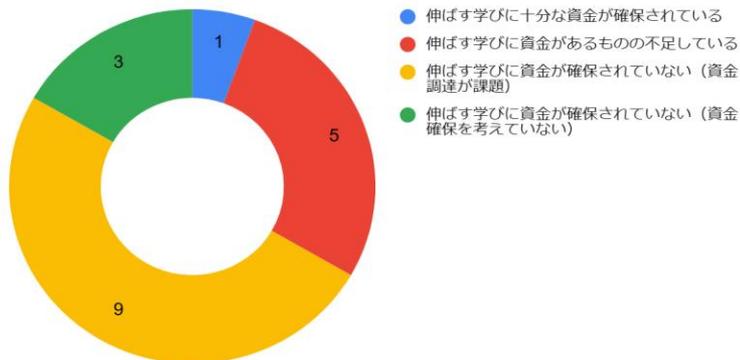
1. 体制不足に関して
 - はじめは外部委託を行い、実施マニュアルを作成しながら徐々に自走を目指す。
 - いきなり外注ではなくトラストバンクなどのポータルサイトにマニュアル提供を依頼する。
 - ポータルサイト側に勉強会や伴走支援を依頼することでマニュアルへの理解を深めることも効果的。
2. 実施内容に関して
 - ・教育大綱や教育振興計画、各校の教育ビジョンや方針等を参考に、「育みたい人物像」「育みたい力」「注力したい学び方」「具体的な取り組み内容」を整理・分析、可視化することで関係者の共通認識をはかる。

● 教育GCF単発活用層のアンケート結果

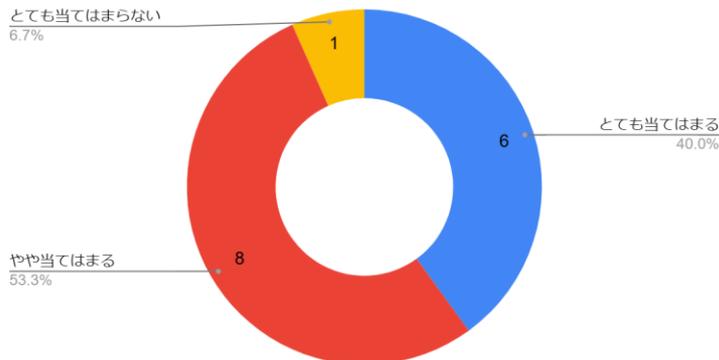
教育分野に関して実施したGCF事業に関して、事業を外部に説明できるような、ビジョン・指針が明確である。



「伸ばす学び」に一般に関して、資金の調達状況について選択してください。



教育に関するビジョン、指針等の実現に向け、関係者による意思統一ができており、組織的な動きが行えている。



【GCF実施層】

- 取り組み内容
 - GCF実施（教育分野以外に関するプロジェクト）
- 課題感
 - (1)教育GCF実施における課題・ハードル
 - 対象自治体のうち半数以上が、以下を課題に挙げた。
 - 動ける人員が不足している（75%）。
 - 伸ばす学びにおける方針や取り組みが明確になっていない（63%）。
 - どの事業に集めるのが決められていない（63%）。
 - 財政部署やふるさと納税担当部署との連携ができていない（50%）。

【関心層】

- 取り組み内容
 - （GCFを実施したことがない）
- 課題感
 - (1)教育GCF実施における課題・ハードル
 - GCF実施層と同様、対象自治体のうち半数以上が以下の点を課題に挙げた。
 - 動ける人員が不足している（75%）。
 - 財政部署やふるさと納税担当部署との連携ができていない（63%）。
 - 伸ばす学びにおける方針や取り組みが明確になっていない（50%）。
 - さらに、関心層特有の傾向として、ノウハウ不足・関係部署のGCF理解不足も課題として挙げた。

GCF実施層/関心層共通

ヒアリング結果から得たヒント

1. GCF実施→ノウハウ、何から取り組むべきかという点のイメージが湧かない
 - トラストバンクなどのふるさと納税ポータルサイトへ庁内勉強会を依頼、または個別問い合わせから理解を深めGCF活用や具体の進行に関するイメージを整理。
2. 体制不足に関して※教育GCF単発活用層のヒントと同義
 - はじめは外部委託を行い、実施マニュアルを作成しながら徐々に自走を目指す。
 - トラストバンクなどのポータルサイトにマニュアル提供を依頼する。
 - ポータルサイト側に勉強会や伴走支援を依頼することでマニュアルへの理解を深めることも効果的。
3. 実施内容に関して※教育GCF単発活用層のヒントと同義
 - ・教育大綱や教育振興計画、各校の教育ビジョンや方針等を参考に、「育みたい人物像」「育みたい力」「注力したい学び方」「具体的な取り組み内容」を整理・分析、可視化することで関係者の共通認識をはかる。

4 実証フィールドでの成果

教育プログラム実施

- I. 参加者：白馬村立白馬中学校及び長野県白馬高校の生徒（希望者）

12月9日（月） 15名（白馬中学生9名、白馬高校高校生6名）
 12月10日（火） 15名（白馬中学生9名、白馬高校高校生6名）
 12月11日（水） 11名（白馬中学生4名、白馬高校生7名）

- I. 企画・運営、共催、後援：
 企画・運営 株式会社Prima Pinguino
 共催 白馬山麓事務組合
 後援 白馬村教育委員会

- II. 日時・場所・内容：

日にち	時間	プログラム名	会場	希望者向け事前・事後プログラム
12月9日 （月）	16:00～ 17:30	モルックであそぼう	ウイング21 多目的室	・ 14:30～16:00英語で未来絵日記 ・ 17:30～18:00英会話表現の復習
12月10日 （火）	16:00～ 17:30	デジタルものづくり をしよう	白馬高校 公営塾	・ 14:30～16:00英語で未来絵日記 ・ 17:30～18:00英会話表現の復習
12月11日 （水）	15:30～ 17:00	ピクチャーブックを つくろう	白馬高校 生物室	・ 14:30～15:30デジタルものづくり ※事前プログラム会場は白馬高校公営塾 ・ 17:00～17:30英会話表現の復習

**英語は自らが
向いてるから大丈夫!**

HAKUBA ENGLISH CAMP

対象 白馬中学生・白馬高校生・白馬に住む外国人
Hakuba junior high, Hakuba high school students
and foreign friends are welcome to join us!
参加費 無料 Free events

12/9 16:00～17:30@ウイング21多目的室
Wing21 Multipurpose Room
"モルック"であそぼう Let's play Molky
希望者は、14:30～「英語で未来絵日記をかこう」
17:30～18:00「今日の英会話フレーズ復習」
にも参加できます

12/10 16:00～17:30@白馬高校公営塾
Hakuba High School "Shirouma Gakuryu"
"MESH"でプログラミング
をしながらデジタル
ものづくりをしよう Explore IoT blocks
and create some
prototypes
希望者は、14:30～「英語で未来絵日記をかこう」
17:30～18:00「今日の英会話フレーズ復習」
にも参加できます

12/11 15:30～17:00@白馬高校生物室
Hakuba High School Biology room
お互いにインタビューをして
白馬の人物図鑑をつくろう Interview each other
and create a
picture book
希望者は、14:30～「"MESH"でプログラミング体験」
17:00～17:30「今日の英会話フレーズ復習」
にも参加できます
お申し込みはこちらから→

共催：白馬山麓事務組合 後援：白馬村教育委員会

プログラム参加者アンケート結果概要

Q:プログラムを終えた
今の気持ちを一言でどうぞ!

- **多くの参加者が「とても楽しかった!」「最高!」**といった楽しさを大いに感じてくれた感想が挙げられた。
- 楽しかった理由としては「海外の方と英語でコミュニケーションを取ることができたこと」「英語を使うことができたこと」「友達ができただこと」「チームでプログラミングをしてゲームをつくることができたこと」「チームでモルックを声をかけながらできたこと」などが挙げられた。

Q:今後もこのような英語のプログラムがあれば参加したいか

- **全員が「とても参加したい」または「参加したい」を選択した。**
- 理由としては「単純に楽しかったから」「いろんな人と話せた」「友達がつくりたかった」「もっと英語を話したいから」などが挙げられた。

Q:イングリッシュキャンプに参加して、今後どんなことに挑戦してみたいと思うか

- 「英語を使って色々な人と話してみたい」「自分から積極的に英語を使ってみることに挑戦したい。とても大事なことで。」「日常で白馬を訪れた外国から来た観光客の方からの質問に落ち着いて答えられるように英語を勉強したい!」など、**英語により興味を持ち、主体的に英語を学び活用したいという趣旨の回答が多く挙げられた。**

プログラム参加者及び関係者からの声



今日、とても楽しかった
ので、明日も明後日も
参加していいですか？！

1日目のみ参加予定だった
中学生及び高校生複数名より



次はいつ開催されますか？
毎年実施してほしい！

プログラムに3日間参加してくれた
中学生及び高校生複数名より



外国人の居住者や観光客の多い
白馬村にとって、子どもたち
への英語教育を強化したい。
また中学生と高校生、そして
外国人が共に学びあうプロ
グラムは今後の地域社会にと
ってとても意味がある。

プログラムを3日間共に運営した
白馬村関係者より

4. 自治体においてGCFを活用するためのロードマップ

月	この時期の 大きなタスク (主眼＝教育委員会)	教育委員会			首長部局			
		教育長	教育委員会	学校現場	企画課	財務	ふるさと納税担当	トラストバンク
4月-6月	○この時期の目的 ○大きなタスク ・ 課題と施策の整理 ・ 目玉事業の選定 ・ 学校現場との調整 ・ 企画書の作成	企画提案 <small>※教育委員会だけでなく教育委員会から課長課長、企画課長等を行う場合も有り</small>	企画提案 <small>※教育委員会だけでなく教育委員会から課長課長、企画課長等を行う場合も有り</small>	現場ヒアリングや調整 ↓ 教育委員会との連携				
		企画検討	企画立案					
7月-9月	○この時期の目的 GCF実施における同意調整 ○大きなタスク ・ 首長部局の企業家への企画提出 ・ 部長、財投課へのレク ・ 追加予算と分けて実施する目的の枠内に対する同意調整	予算と企画に関する相談		教育委員会から首長部局へ相談 追加予算とは別建てで 予算をつけた事業とするがこのタイミング で企業家が検討する				
				部長へのレク ↓ 単体化・手続化に向けた議論 ↓ 既存予算からの充当検討 ふるさと納税の使い道からの充当を検討 ↓ 追加の予算確保手続としてGCFを締結				
10月-12月	・ より詳細な財源の調整 ・ 議会への準備 ・ 議決承認後ふるさと納税に実施の旨と具体進行を進めるよう行内で意思決定をする ・ ふるさと納税課を中心となりGCFページ用の資料集めやテキスト集め、ページ構成の作成等を実施する	GCFページ用の写真資料の回収やテキスト作成等を実施			議会申請 議会で承認された後正式に予算が付き単体化	GCF実施に関する情報提供	企業内容の手前総経理MTG	
						GCFの企画内容調整	担当アサイン 初回MTG	

※ロードマップ詳細は
拡大版PDFをご参照ください。

5. 今後の展望・考察

教育GCF継続活用層自治体のヒントに対する考察

1. 予算確保

- 一般財源やGCFに依存せず、基金活用やふるさと納税の通常枠追加、ファンド設立など、複数の資金調達手法を検討している。
- 一般のクラウドファンディングとの併用も選択肢に入れている。

2. 寄附者層分析とターゲティング

- 新規層の開拓：ターゲット層の興味・関心に基づいた訴求ポイントを常に整理している。
- リピーターの確保：寄附者との継続的な関係構築に向けたコミュニケーションを実施。（GCFの進捗情報投稿機能を活用）

3. 庁内の理解、協力を得るための工夫

- 庁内での理解を得るために外部（ポータルサイト等）のセミナーや庁内勉強会等を上手く活用している。

4. 発信戦略の構築と地道な運用

- SNS/メディア戦略を建て、日々地道に発信を行っている。

今後の展望

トラストバンクとして行っていきたいこと

- 今回の実証事業で行ったアンケート結果、ヒアリング結果を軸にトラストバンクや民間で自治体向けにセミナー実施。
- 他自治体で行われている予算確保までのステップやヒントを改めて発信し、教育員会や自治体の担当者が感じる漠然とした課題感の優先順位整理や言語化、各課題に対する打ち手の解像度を高めるサポートの実施。
- 同時に寄附者にも教育領域での資金面での課題や起きていることを自社サイトを通じて発信を続けることで寄附者側の意識変容にもチャレンジしていく。

教育関係者の方にアクションをして頂きたいこと

- セミナー参加頂きGCF活用のステップ等を理解頂きつつ、外部を上手く活用しながら教育コンテンツ等のGCFをはじめとする予算確保の検討開始頂く。
- 庁内での予算確保の手段としてふるさと納税を活用することの理解を深める。
- そのためにも他地域での成功事例を把握した上で、教育ビジョンに関して関係者間での認識すり合わせを改めて行うことも重要。